しまねの社会教育だより

vol.34
島根県立東部社会教育研修センター
島根県立西部社会教育研修センター

photo 邑南町　家庭教育支援事業「親子で逃走中～おおなん鬼ごっこ　バージョン 2021～」

特集 ひとづくり・つながりづくり・地域づくりに いま、社会教育士が求められています

2022.
2月号

contents

■「つなぐ・つながる実践発表交流会 2021」報告
■ 学びがチカラに!!　〔奥出雲町　八川公民館　松崎 由紀子さん〕
■ わがまちの社会教育の実践紹介　〔安来市・吉賀町〕
■ つながる ひろがる “わ”　〔津和野町〕

特集 ひとづくり・つながりづくり・地域づくりに

「社会教育士」って？

「社会教育士」は、令和２年度以降の社会教育主事講習や大学等における社会教育主事養成課程を修了した方々に与えられる**称号**です。

社会教育主事は、講習や課程を修了し、県または市町村教育委員会からの発令によって「社会教育主事」として業務にあたります。しかし、社会教育主事のもつ専門性は、今後官民を問わず多くの分野で重要と考えられるため、令和２年度の講習から、定められた科目を修了した方は「社会教育士」と称することができるようになりました。

講習や課程では、一般的に下記の専門性の習得をねらいとして行われています。

1 ファシリテーション能力
活動への意欲・自発性を引き出しながら意識・行動の変化を促していく「学び」を支援するための基礎的な知識と技能

2 プレゼンテーション能力
地域のひと、もの、ことや、共有したい情報を、より多くの人に、わかりやすく、共感しやすい方法で伝えていくための基礎的な知識と技能

3 コーディネート能力
異なる他者どうしが相互理解を深め、信頼し合い、互いを支え合うことができる関係（協働）へと調整するための基礎的な知識と技能

「社会教育士」に期待されていることは？

社会教育士には、NPOや企業等の多様な主体と連携・協働し、多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる次のような役割が期待されています。

- 学校・家庭・地域が連携した教育活動や、地域づくり、福祉、環境等のさまざまな分野での地域活動、ボランティア活動等において、専門的知識や能力を活かして活躍する。
- 行政や企業等での職員の人材育成や、学びを通した人づくり、つながりづくり、地域課題の解決等の担当者として活躍する。
- 「社会教育士」としての共通の知識やネットワークにより、分野を越えたセクションでの連携・協働を促進するために活躍する。

「社会教育士」になるには？

	社会教育実践研究センター及び大学等における講習	社会教育実践研究センターにおける講習（島根会場）	島根大学における講習
場 所	①社会教育実践研究センター（東京都） ②各地の大学	①サン・レイク（出雲市） ②いわみーる（浜田市） （他、全国 13 会場）※R3年度	各職場・家庭及び県内施設
期 間	７月末～８月末	１月末～２月末	７月～１月（週1回程度）
時 間	平日9:30～17:30 ※実施大学により異なる場合あり	平日9:30～17:30	平日19:30～21:10 ※年3回、土日の集合型研修あり
形 態	・オンラインによる講義 ・集合対面型の演習	・オンラインによる講義 ・集合対面型の演習	・オンラインによる講義 ・3回程度の集合対面型の講義・演習
特 徴	約1ヶ月で集中して受講可能	複数年での分割受講も可能	職場や家庭から受講可能

社会教育士についてさらに詳しく知りたい方は、文部科学省 社会教育士 特設サイトをご覧ください。

リーフレット（発行：島根県教育庁社会教育課）
(HP:https://www.pref.shimane.lg.jp/shakaikyoiku)

引用資料
文部科学省ホームページ（https://www.mext.go.jp/）
「社会教育主事講習等規程の一部改正に関する説明会（配付資料より）」H30　文部科学省
中教審答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」H30　文部科学省

いま、社会教育士が求められています

①加藤　郁海さん
②飯南町来島公民館・主事
③公民館主事になって6年。今後の公民館活動充実に向けたヒントを得たいと思い受講しました。

講習後に行った賀田城に関わる事業では、多くの関係団体等を巻き込みながらの事業づくりを進めています。学習会やパンフレット作成・山城サミット開催・地元温泉とのタイアップなど関わってくださる地域の方々の声をしっかりと聞き、みなさんと共有しながら進めていくことを大切にしています。また、運営委員会では、協議の場に参加型学習を取り入れたり、視察研修においては地域課題に迫る内容を取り入れたりしました。

高いレベルのことを要求されることもありますが、その期待に応えていくことに今やりがいを感じています。

①山本　裕子さん
②大田市立池田小学校・教頭
③地域の方と連携して活動することは、子どもの学習にとってより効果的だと感じていました。オンライン形式ということで、学校業務と両立して受けられることを知り、「地域との協働」について理解を深めたいと思い、受講しました。

講習は、見る・聞く（インプット）だけでなく、自分の考えを話す（アウトプット）場が多くありました。

いろいろな地域・職種の方と意見交流することで、学校以外の見方について知ることができ、また学校のことをていねいに伝えていくことの大切さをあらためて感じました。

学校運営協議会やまちづくりセンターと協力しながら、学校と地域でこまめに話し合いを重ね、子どもたちのためによりよいふるさと教育を進めていきたいと思います。

①お名前
②所属
③受講のきっかけや
受講中特に印象的だった学び、
業務においていかしたいことなど

しまねの「社会教育士」の声！

社会教育士

①川上　主税さん
②隠岐の島町教育委員会総務学校課・
隠岐水産高校魅力化コーディネーター
③人との関わり好きな性格を、どうすれば仕事や地域に活かせるか学べそうだと思い受講を決めました。学びながら、「『資格』と『実習』に力を入れる隠岐水（産高校）」をどのように地元や全国に発信できるのかを考えました。小中学校行事や地元団体等への参加など、幅広く関わりをもち、つながりから得た情報をもとにして人の目に留まるHP、プレゼンの手法などを考え、隠岐水の魅力が広まるよう動いていました。

さらに、「隠岐塾」や「つながらぁや」を通して仲間をつくり、地域課題解決に向けた取組も行っています。実践をしながら、社会教育・大人の学びの奥深さと難しさを痛感しています。しかし、難しさが面白さの要であり、そこに向き合うことが自分自身にとっての社会教育なんだと思います。

①山﨑　萌果さん
②一般社団法人 豊かな暮らしラボラトリー
（益田市）
③大阪から島根にＩターン移住し社会教育に関わる中で、社会教育について体系立てて学んでみたいと思うようになり、島根大学の講習を受講しました。

半年間オンラインでの受講だったので、講習での学びと現場での実践を行ったり来たりすることができました。多様な講師陣から実践を踏まえた理論を学ぶことができ、また、全国各地の社会教育関係者とつながることができたのも大きな価値でした。

ここでの学びを活かし、子どもたちのためだけでなく、関わる大人や地域にとってもWINのあるような「三方良し」を描けるよう、常に想像力を働かせられる社会教育士でありたいです。

令和3年11月18日（木）実施

つなぐ つながる 実践発表交流会 2021 報告

「鳥の目　魚の目　虫の目で考える包括的な放課後支援～まちの縁側の取組から～」

栗栖　真理さん
（浜田第一中学校区地域学校協働活動推員・浜田のまちの縁側 代表）

ここがポイント

- 民間でできる社会教育の実践
- 「遊びを止めない」
  →遊びは“学び”だから
- 粘り強さ、優しさなどの非認知能力を成長させるのは体験であり、社会教育のがんばりどころ
- 家庭の格差を受け止められる社会になるよう、放課後支援、家庭教育支援を進めていく

◆参加者の感想から

視点を変えることで、子どもの日々の生活の問題点やその解決にむけた取組がなされ、年数を重ねられることで、より充実してきていると思います。

QRから実践発表の動画をご覧いただけます。
（視聴期限は、R4.3.31 まで）

「子育てサークルから始まる家庭教育支援～隠岐の島・子育てサークル♡オヤトコ♡」

齋藤　智美さん
（子育てサークル♡オヤトコ♡ 代表）

ここがポイント

- お母さんがお母さんになっていくプロセスを大切にしている
- 一緒に分かち合っていくことで社会的視野が広がっていく
- 親が横のつながりの中でよい教育とは何かを考えている
- 地域の子どもたちを丸ごと受け止め、一緒に何ができるかを考えていく家庭教育支援が親たちに広がっていくといい

◆参加者の感想から

小さな子を持つ母親の悩みからスタートし、同じ悩みを持つ親が集まってきたことで、いろいろな人々が協力し、逆に子どもから手が離れて自分のやりがいに変わってきたのが継続できる理由ですね。

「松江城堀川の水環境保全活動を通した地域学校協働活動の取組」

中田　光俊さん
（千鳥のお堀を学ぶ会代表・城北小学校PTA 副会長）

ここがポイント

- 大人が楽しんでいる
  →楽しくなければ社会教育でない
- PTAは大人の社会的活動のスタートになりやすい
- 大学生や仕事を持っている人などいろいろな世代が関わっていて、それが町の魅力になる
- 地域の愛しい人たちと様々な経験をすることで、楽しく活動が続けられる

◆参加者の感想から

「自分たちが住んでいる地域の資源に愛着を持ってほしい」と共感し、同じ想いをもっているメンバーで一つのチームがつくられていることが素敵だなと思いました。

「学び合うための条件をもう一度考えてみよう」

Q. なぜ地域が、保護者や先生の「お手伝い」「応援」ではいけないの？

A.　立ち上げ期・きっかけづくりは、学校のお手伝い・応援でOKです。 しかし、○○の代わりに働くボランティアを増やすことは、学校・家庭・地域のそれぞれの役割と責任を自覚する取組にはつながりにくいです。多様な大人が多角的な視点から考えた内容、方法であるからこそ、さまざまな子ども・若者にあった活動へと発展、成長していくのではないでしょうか。

学校、家庭、地域が協働する意義・意味はここにあるのです。

地域と学校の「協働」が成立するためには、相手の立場や事情を理解したり、気持ちに寄り添ったり、それぞれの願いや問題意識を共有したり、親近感・仲間意識を持つ「良好な関係性」が必要です。

つながろう
子どもとともに
輝く私たち

約80名の地域ぐるみの子育てに携わる方々が集い、子どもの育ちに関わる特色ある6つの実践発表を聞くとともに、講師の志々田まなみ氏（国立教育政策研究所生涯学習政策研究部　総括研究官）のお話から、立場の異なる人たちが協働していく上で大切にしたいことについて考えることができました。

久しぶりの集合型の研修に、「Face to faceで学ぶこと、話すことは他に代えられない大きな力があると確信しました。」という参加者の声もありました。

「多様なつながりでつくる“まち全体が学びの場”～つわの@HOMEプロジェクト放課後さんまの実践より～」

中村　和恵さん（津和野公民館）
住田　桃子さん（（財）つわの学びみらい・教育魅力化コーディネーター）
舟山　宏輝さん（（株）FoundingBase）
石川　元揮さん（思うは招こう会）
佐々木将光さん
（津和野町教育委員会 派遣社会教育主事）

ここがポイント

- 「地域づくり」というと大人をイメージするが、大人は簡単には変わりづらい
- 小学生～高校生の青少年教育を核として地域づくりを考える
- 子どもは、刺激を受けやすく変わりやすい
- 子どもの取組に大人が関わり始めて、大人が変わり始める

◆参加者の感想から

さまざまな立場の人がつながって対話を繰り返しながら目指すものを見つけ、創っていくことに魅力を感じました。その人、団体の立場や持ち味をまちづくりに活かしていく前向きな考え方が素敵です。

「ひとが繋がり　ひとが育つ好循環～子どもも大人もまちづくりの主体者に！～」

石川　有里さん
（西益田つろうで子育て協議会 事務局）
大畑　咲絵さん
（豊田公民館地域魅力化応援隊員）
田原　俊輔さん
（益田市教育委員会 派遣社会教育主事）

ここがポイント

- 10年にわたる取組で年々うねりが大きくなっている
- 活動自体は変わっているが、目指しているものは同じ
- 学校で学んだことを地域につなげていくという学びのサイクルとしてどんどん子どもが変わっていく
- 子どもがまちづくりに関わり学びのサイクルが短期間で回り始めている

◆参加者の感想から

子どもを核にして大人を動かしているところが素晴らしいと感じた。そして、子どもも大人も対等な立場で地域で活躍し、意見したことや考えたことを実践できる益田市の雰囲気はすごい。

「出雲市親学プログラムのこれまでとこれから」

三成　圭寿さん
（親楽ファシリテーターの会出雲）
森脇　淳志さん
（出雲市教育委員会 派遣社会教育主事）

ここがポイント

- 行政と民間が常に目的を共有し続けていくことが大事
- 行政と民間が互いに刺激し合えるパートナーシップ
- 親学ファシリテーターとして社会的にどういう意味があるのか、自分の在り方を考えることが大切
- ファシリテーターは、相手が自分自身をどう表現できるのか、励まし、支える役割

◆参加者の感想から

行政にとっても、親学ファシリテーターにとっても、互いがパートナーであるということが大切だと思いました。ゆるーい感覚でもよいので、仲間や協力者を大切にして、継続していくことが大切だと感じました。

～志々田まなみ氏の講演から～

shishida

立場の異なるものどうしが学び合えるための条件をもう一度考えてみよう！

1) より多くの人に納得・共感できる情報がわかりやすく交換され、その解決にむけた自分なりの具体的な活動が提案できること。

2) 誰でも気軽に楽しく参加できる活動から、自らの多様な経験や学習成果を活用した活動まで、いろいろな関わり方が選択できること。（＋安心して楽しくすごせる活動から、学んだことを活用して達成感を感じる活動まで）

3) 予測ができない、正解のない「より良さ」について語り合えること。

志々田まなみ氏

オープニングトーク

講演・全体講評

学びがチカラに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを、地域や現場での実践に活かしていらっしゃる方を紹介します

若い者（もん）のチカラを地域づくりへ

奥出雲町　八川公民館　主事　松崎　由紀子 さん

松崎さんが、社会教育研修センターの「公民館等職員研修」を受講されたのは今から５年前。当時から、八川地区で活動しているグループや団体をより活性化させたいという思いを持っておられました。そこで、青年層をターゲットとしたワークショップや畳cafeを企画されました。地域課題について自由に語る機会や地域での活動を共に考え企画・運営していく場を設けるなど、青年層が積極的に地域に関わることができる環境づくりに取り組んでいかれました。それから５年の月日が経ち…、若い者（もん）のさかんな動きがみられるようになりました。

■思いをカタチにしていく∞会議（エイトパーティー）

∞会議（エイトパーティー）とは、３年前に発足した八川地区若い者会のことです。八川の８がゴロンと寝っ転がる様は、気楽でそして、集まった力が無限大の可能性をもってほしいとの願いからです。この会議が立ち上がり、地区内各地で活動する若者同士が顔見知りになり、しだいに自分の考えを率直に提案し語り合うことができる場に変わってきました。そして「ミニ四駆＆ラジコン奥出雲グランプリ」「ホッケーストラックアウト」「子ども卓球大会」などの活動へとつながっていきました。事前に、∞会議リーダーとねらいを共有したり、進め方を検討したりするなどしていきましたが、あくまで若い者の思いをカタチにすることが第一。会議にも参加しますが、事業を進める際の留意点や子どもへの接し方など求められたことに対してのみアドバイスするとともに、自分の思いも“さりげなく”伝えるよう心がけています。

■通学合宿に巻き込む

公民館事業「通学合宿」でも、∞会議のチカラを活かしたいと考えていました。そこで、∞会議メンバーの皆さんと共に、カローリング大会や肝試し、「通学合宿」前のピザ窯作り体験とピザ作りを企画・実施するなど、毎年新たなチャレンジを続けています。話し合う場をより多く設けることで、八川の子どもたちを育てていこうとする思いをさらに強く持ってほしいし、同じ思いを持った他の世代の方との交流も深める場にもなってほしいですね。

松崎さんのおっしゃっていた“さりげなく”には強い願いが込められていました。いずれは、子どもから高齢者まで幅広く関わる視点を持ってくれるのではないか、そのことが、やがて、地域課題解決の原動力へ・・・と語る松崎さん。これからも∞会議の活躍を温かく見守っていかれることと思います。

わがまちの社会教育の実践紹介

安来市

子どもたちを地域全体で育むために「さぁ！十神（とかみ）小学校に行ってみよう♬」

安来市　十神交流センター

発表会衣裳の着付けボランティア

十神交流センターではこれまでに支援ボランティアとともに小学校の学習を支援したり、長期休業中や振替休業日に行う体験・交流活動としての放課後支援活動（寺子屋とかみ）を行ったりしてきました。

そしてこの度、より多くのより幅広い層の地域住民の参画をねらって「十神小　子どものための学校支援ボランティア」募集を行いました。すでに関わってくださっていた方々に加えて、チラシや声がけなどによる新たなメンバーも加わり、これまでに30名以上の方にボランティア登録をしていただいています。

家庭科の学習への支援

このメンバーでこれまでにミシンを使った家庭科の学習の支援や学校の環境整備作業を行いました。支援ボランティアからは「自分の技術や空いた時間が活かせてよかった」、「ボランティア仲間と話ができて新しいことがわかった」などの感想がありました。また小学校の教頭先生にもご協力いただき学校支援ボランティア研修会も行い、楽しい雰囲気の中で活動の情報交換などができました。

今後も関係者間で連携しながらよりよい形で活動を続けていきたいと思います。

学校支援の場づくりをきっかけとして、支援ボランティアの自己有用感の高まりや子どもとボランティア、ボランティアどうしなどの新たな出会いにつながっています。これらのことが子どものみならず、大人たちの喜びにもつながっています。

また、学校と家庭・地域の良好な関係性のもとで活動が進められており、今後も相互理解のうえでさらに活動が充実していくことが期待されます。

（松江教育事務所 安来市派遣社会教育主事）

吉賀町

吉賀町親学ファシリテーターの会 ～自分たちで広げる家庭教育支援の輪～

吉賀町親学ファシリテーターの会　代表　河内 さくら
吉賀町派遣社会教育主事　中村　浩志

吉賀町では現在15名の親学ファシリテーターが在籍しており、保育所スタッフや公民館主事、学校関係者、SSW等、その職種もさまざまです。また、ファシリテーター同士で『親学ファシリテーターの会』を組織し、定例会を開いて情報交換をしたり、スキルアップのための研修会を開いたりしています。

現在、町内各小学校の就学時健康診断やPTA研修会などがメインの活躍の場となっていますが、お呼びがかかるのをただ待っているだけでなく、自分たちで親学実施の場をつくるために、日々模索しています。令和元年度には、自分たちの主催で乳幼児とその保護者対象のイベントを開催することができました。

コロナ禍ということもあり、集う場を設けることは難しい状況にありますが、私たちは簡単にはあきらめません！行政任せにせず、自分たちから保護者同士のつながりや家庭教育支援の輪が広がっていくよう、活動を続けていきたいと思います。

スキルアップ研修会

PTA研修での親学プログラム

皆さんが、親学での学びを大切にし、新たなつながりを作ろうと主体的に活動していらっしゃる姿に熱意を感じます。新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出の機会が減ったり、外出できたとしても周囲へ気軽に話しかけられなかったり、保護者が地域につながりを作りづらくなっています。子育てが孤育てにならないように、つながりの輪を広げていける活動を今後も継続してほしいと思います。

（益田教育事務所 社会教育スタッフ企画幹）

つながるひろがる“わ”

津和野町編

しまね学習支援プログラム第３弾「地域魅力化プログラム※」活用の様子をお伝えしている「つながる ひろがる “わ”」、今回は、津和野中央公民館主事 中村 和恵さんの実践を紹介します。

「つわの＠HOMEプロジェクト ～放課後さんま にて～」

津和野町では、子どもにとって家でも学校でもない３つ目の「居場所」をつくることを目的に、このプロジェクトを立ち上げました。「さんま」とは、時間・空間・仲間、３つの「間」のことで、これらがそろう場をつくりたいという思いが込められています。

●子どもたちの「やりたい」を引き出す

放課後になり、子どもたちは「まちのオフィスQ+（キュープラス）」へやってきます。小学生が宿題をするのをサポートする中学生の姿が見られます。月曜日（小学生が５時間授業・中学生が部活動なし）の放課後に、「自分たちが過ごしたい放課後を自分たちでつくる」ことをテーマにこの活動は始まりました。中学生がメインで企画・運営をしています。そこに中村さんが関わっています。

みんなが楽しめる場にするために、中学生が「どんなことをやってみたいか」をテーマに、ラベルワークを行いました。「できる・できないは気にせずに」と言葉かけをしたり、「こうなったらいいな」という理想をどんどん出してもらうよう伝えたりすることで、アイデアがたくさん出てきました。その1つに「夏祭り」があり、実施に向け動き出しました。

7月から活動を始め、本番の夏祭り開催に向けて打ち合わせ・準備を重ねました。当日は、中学生が屋台を出したりビンゴ大会を行ったりと、たくさんの参加者に来てもらい小学生にも楽しんでもらうことができました。「自分のやりたいことができた」という達成感や自己有用感を感じられたひとときでした。

大きなイベントに限らず、日常的に誰もが楽しめるような活動を大人と一緒になって主体的に計画する中学生の姿も見られるようになりました。「この活動を始めてから小学生と関わることが多くなって、小学生と話す機会が増えて嬉しいです」「自分から意見をどんどん出せるようになった」という声も聞かれるようになりました。中学生にとっても「居場所」であり、「成長する場」となっています。

そして子どもたちの「やりたい」は、大人もまきこんだ地域の活動の活性化につながっています。

津和野町では、「０歳児からのひとづくり事業」に取り組んでいます。学校や保育園、家庭、地域、行政が、校種やセクションの壁を越え、多様な人が関わりを持ちながら、一体となりつながりのある教育環境づくりをめざしています。

この「つわの＠HOMEプロジェクト～放課後さんま～」の取組もそのひとつです。中学生や高校生、地域の大人など多様な人が関わりながら、子どもたちにとっての安心・安全な居場所をつくっています。子どもを中心に据えながらも、関わる中高生や大人にとっても学びの場となるよう、中村さんがていねいに子どもたちの思いを引き出したり、様々なつながりをつくり出したりしています。

津和野町教育委員会　派遣社会教育主事　　佐々木　将光

※「地域魅力化プログラム」とは、地域づくりに主体的に参画する人づくりを支援・推進するために、参加型学習の手法を用いた学習支援プログラムです。当センターホームページから閲覧・ダウンロードできます。

東部社会教育研修センター
〒691-0074　出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.（0853）67-9060　Fax.（0853）69-1380
URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター
〒697-0016　浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.（0855）24-9344　Fax.（0855）24-9345
URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第35号は9月末発行予定